

## 造影 MRI 検査の説明書

患者氏名： \_\_\_\_\_

検査予約日： \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

### 1. 造影 MRI 検査の目的と必要性

今回の MRI 検査では造影剤を使用します。MRI の造影剤はガドリニウムという金属をわずかに含む薬で、静脈に注射します。造影剤を使用することで、病気の性質や広がりなどが詳しくわかり、診断に大変役立ちます。造影剤を使用しなくても MRI 検査はできますが、検査の部位や目的によっては造影剤を使用しないと正確な診断ができない場合があります。

### 2. 造影剤の副作用について

造影剤は一般的には安全な薬ですが、以下のような副作用がおこることがあります。

- 1) 軽い副作用：稀に、吐き気・じんま疹・くしゃみ・頭痛などがおこることがありますが、一時的なもので心配ありません。頻度は約 100 人につき 1 人程度です。ほとんどの場合は自然に軽快しますが、薬を使うこともあります。
- 2) 重い副作用：血圧の低下・呼吸困難・意識障害などがおこることがあります。頻度は約 2 万人に 1 人程度です。薬で治療しますが、気管挿管など特別な治療を要したり入院が必要になる場合もあります。死亡の報告もありますが、非常にまれで（約 83 万人に 1 人）、これまで当院での死亡例はありません。
- 3) 検査後しばらくしてから（数時間～数日後）、じんま疹・頭痛・倦怠感などの副作用が生じることがあります。ほとんどは自然に良くなり心配いりませんが、症状がひどい場合は来院されるか、電話でご連絡ください。
- 4) 造影剤の注射の際、造影剤が血管外に漏れることがあります。通常は時間がたてば吸収されますので心配ありませんが、漏れた量が非常に多い場合には処置が必要になることがあります。
- 5) 高度の腎障害がある場合に MRI 造影剤を使用すると、全身の皮膚や臓器が硬くなる副作用（難治性の腎性全身性線維症）が生じる可能性が高くなります。腎性全身性線維症の発生を防ぐため、検査前 3 ヶ月以内に血液検査で腎機能を確認しています。

\* 喘息やアレルギー体質の方、以前に MRI 造影剤で副作用のあった方は、副作用がおきやすいと言われていきますので、事前に教えてください。万が一、副作用がおきた場合に備え、すぐに適切な対応ができるように準備を整えて検査を行っています。検査中に具合が悪いと感じた場合には、すぐに検査担当者に伝えてください。

### 3. 合併症が生じた場合の医療費

この検査や合併症が発生した場合の費用は、すべて健康保険の適応となります。高額医療の助成やその他公的助成等については、院内に相談窓口がありますので、スタッフにお尋ねください。

### 5. 代わりの検査

検査の部位や目的によっては、CT や PET などでも診断できる場合もあります。ご希望の方は、担当医にお尋ねください。

### 6. 同意を撤回する場合

同意書に署名された後でも、造影剤の使用をやめることができますので、担当医か MRI 室のスタッフにお知らせください。わからないことがあれば、何でもお尋ねください。

以上のように、患者へ説明しました。

説明年月日： \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日

医療機関名： \_\_\_\_\_

説明医： \_\_\_\_\_